

児童作文における心的外傷後成長（PTG）とレジリエンス

—テキストマイニングによる居場所、時間的展望、自己肯定感の研究—

○西野美佐子¹・いとうたけひこ²

(¹東北福祉大学・²和光大学)

【目的】 心的外傷後成長（Posttraumatic Growth）とは、個人がストレス体験をきっかけとした人格的な成長やポジティブな変容のことである。本研究の目的は、東日本大震災を経験した小学生、中学生、高校生の作文から、子どもたちの語りの特徴を明らかにし、心の居場所、時間的展望（希望）、自己肯定感に着目し、PTGとレジリエンスがどのように表現されているかを明らかにすることである。

【方法】 <分析対象> 宮城県南三陸町歌津地区内の小・中・高校生の作文 306 編である。作文は、素晴らしい歌津をつくる協議会より『未来への遺言』として公刊しているものである。小学生 114 名

(37.05%)、中学生 133 名 (43.61%)、高校生 59 名 (19.34%)、合計 306 名 (100%) の作文である (表 1 参照)。<分析方法> 上記の冊子をテキスト化し、Text Mining Studio Ver.4.2 (Mathematical System Inc.)により、テキストマイニングの手法を用いて内容語の分析を行った。語りのデータは冊子の構成に従い、各作文の語りを 1 段落、1 行として入力した。その後、全児童作文を、Calhoun,K と Tedeschi,R (2006) の PTG 尺度の 5 因子 (第 1 因子が「他者のとの関係性」、第 2 因子「新たな可能性」、第 3 因子「人間としての強さ」、第 4 因子「精神的な変容」、第 5 因子が「人生に対する感謝」) に照らして、「有り」「無し」「どちらでもない」の 3 つに分類した。

学年	男	女	合計
小学生	4	18	14
	5	17	18
	6	18	29
合計	53	61	114
中学生	1	18	20
	2	22	22
	3	28	23
合計	68	65	133
高校生	1	15	9
	2	6	7
	3	9	13
合計	30	29	59
総数	139	152	306

【結果】 (1) 表 1 は、小・中・高校生の記述した作文の基本情報である。総行数は分析対象作文の総数を表しており、306 編であった。一人当たりの作文の文字数を表す平均行長は 322.7 文字であった。総文数は 6275 文で、平均文長は 15.7 文字、内容語の延べ単語数は 41177 で、単語種別数は 5203、タイプトークン比は 0.126 であった。(2) 単語頻度解析：①総単語頻度分析結果 (名詞/形容詞/動詞)

項目	値
1 総行数	306.00
2 平均行長(文字数)	322.70
3 総文数	6275.00
4 平均文長(文字数)	15.70
5 述べ単語数	41177.00
6 単語種別数	5203.00

小、中、高校生が記述した作文 306 編において、出現頻度が高かった単語は「町」(485 回)、続いて「家」(471 回)「津波」(447 回)であった。最も頻度の高かった「町」は、震災発生時の町の状況、震災後の町の様子、町への思い、復興への思いなどが述べられる際に用いられていた。特に中学生、高校生は小学生に比べ震災時の状況が詳細に記述されている。また、町が復興し、人々が安心して笑顔溢れる「町」になることを望む記述が多く見られた(下の原文参照)。

②名詞で出現頻度の上位 3 位までの単語は、「町」「家」「津波」、形容詞 (自立) の出現頻度上位 3 位までの単語は、「良い」「嬉しい」「凄い」、形容詞 (名詞語幹) の出現頻度上位は、「大切」「不安」「大変」「無事」「いろいろ」で、動詞の出現頻度上位 3 位までの単語は、「来る」「いる」「見る」であった。

(3) 係り受け頻度解析の結果、頻度が高い語彙連鎖は、「津波一来(く)る」(130 回)「家一流す」(66 回)「人ーいる」(63 回)「家ー帰る」(43 回)「町ー復興」30 回で、次に、「外ー出る」「迎えー来る」「雪ー降る」が続いた。(4) 小・中・高校生別特徴語抽出の結果：小学生に特徴的な語は、「家」「町」「津波」「町+したい」「くる」であり、中学生に特徴的な語は、「歌津」「1 年」「復興」「未来」「卒業式」であり、高校生に特徴的な語は、「揺れ」「家族」「母」「父」「人達」であった。(5) 原文に当たり PTG に関する 5 因子の評定を行った結果、PTG が確認された。謝辞：本研究は東北福祉大学感性福祉研究所における文科省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (平成 24 年度～28 年度) による私学助成を受けている。

表3 震災当時の「町」の状況と復興に関する今後の「まち」への希望

- 【町】「人や家が流され、ぼくたちの町がなくなりました」(小4、男)「避難をしていた途中に僕たちの町が海の中に消えて行くのが見えました」(中3、男)「揺れから30分位経つと、町の方から土けむりが上がりました。すると「津波だ！」という声が響きました。私達はさらに高台に逃げ、町の見える所に着きました。その時見たのは引き波で沖に流される家などでした。言葉がでないほど悲惨な光景でした」(高1、男)
- 【復興】「地震や津波に強い町作りをして、もしまたしん災がきてもみんなで助け合えるいい町にしたいです」(小4、男)「一人でも多くの人の命が助かるような町づくりをしていく事が大事だと思います」(小6、男)これからこの町の復興を進めていくのは私たちです。安心安全な町はもちろんですが、心を休めることができる町を目指していきたいです」(高2、女)